

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：健康・スポーツ学科

資格：准教授

氏名：武岡 健次

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者の転倒予防	高齢者、転倒予防、リハビリテーション
学位	最終学歴
修士（学術（健康科学））	大阪教育大学大学院 教育学研究科 健康科学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. ゼミ学生とコラボレーション活動	2014年04月～現在	ゼミ学生の演習授業の一環として、高齢者の転倒予防教室、付属幼稚園の園児の体力測定を実施した。武岡ゼミ学生は地域貢献、園児との交流により企画、運営する能力を身につけた。
2. 学生の授業内容向上のための取り組み	2010年04月～現在	授業に関するアンケートを実施し、学生が興味を持っていること、関心があることに理解し、具体的に取り入れ、授業内容の向上を目指す。
3. 双方向の授業の実践例（学び発見ゼミ）	2010年04月～現在	学生の積極的な授業参加を促すため、興味のあるテーマについてプレゼンテーションを実施させ、質疑応答に対応させる。学生の不安、緊張を和らげるため発表前に事前にプレゼンテーションを試みる。結果として授業の中で自分の意見を伝えることについて自信を持つことができるようになる。
4. 双方向の授業の実践例（演習 実技）	2010年04月～現在	一般的な疾患である肩こり、腰痛に対して予防方法などを伝授する。例えば腰痛のある学生に姿勢の特徴や柔軟性、筋力などの評価方法を指導する。二人一組で姿勢、柔軟性、筋力を評価し腰痛の学生との違いを確認する。相違点や問題点を挙げ、腰痛の予防方法について意見交換を行う。
5. 特色ある授業内容の実践例	2010年04月～現在	授業開始時に授業内容の概要を示し、学生に授業の見通し、目的、重要事項についての理解を深める。
6. 講義における教育上の創意工夫	2008年4月～現在	講義についてはパソコンを使用し、シンプルで理解しやすい講義を心がけている。学生の理解や好奇心を刺激するために理学療法、リハビリテーションにおける治療場面や疾患の特徴を画像やビデオを使用し、講義のポイントを明確に伝えている。
7. 演習、実技における教育上の創意工夫	2008年04月～現在	演習、実技では常に相手とコミュニケーションをとることができるか、筋力トレーニング、ストレッチなどの治療手技・目的を明確に伝えられるかを念頭において実技を行っている。
2 作成した教科書、教材		
1. 生活リハビリテーション学	2012年03月～現在	共通教育科目、生活リハビリテーション学の講義資料として作成し、受講生の予習、復習、理解度を高めるためのテキストである。
2. 老年期リハビリテーション学	2012年03月～現在	共通教育科目、老年期リハビリテーション学の講義資料として作成し、受講生の予習、復習、理解度を高めるためのテキストである。
3. 健康科学 I	2012年～現在	健康科学の講義資料としてパーキンソン病、脊髄小脳変性症、高齢者についてのテキストを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 肩こり、腰痛の予防とストレッチ講習会	2015年10月21日	肩こり、腰痛の原因、発生機序について説明し、その対策となるストレッチ方法並びに正しい姿勢について講習会を実施した。
2. 転倒予防の要因と簡単トレーニング	2015年09月26日	兵庫県教育委員会阪神教育事務所 芦屋市教育委員会 主催 転倒の要因に関する事例や家で簡単にできるトレーニングについて実技を加えて講演を実施した。
3. 高齢者の運動教室 寝たきり予防と簡単かべ体操	2015年07月	主催 生涯学習鳴尾大学講座 近隣の高齢者を対象に、寝たきり予防のトピックスを紹介し、かべ体操の簡単な運動を実施した。
4. 幼稚園児の走り方	2015年06月	武庫川女子大学付属幼稚園の先生方に、幼稚園児の走り方（脚の振り出し方、蹴り方、上肢の振り方、体幹の姿勢）について講演した。
5. 寝たきり予防と簡単トレーニング	2015年06月	主催 武庫川女子大学栄養科学研究所 講演 近隣の高齢者を対象に寝たきりの弊害、予防、簡単なトレーニングについて講演を実施した。
6. 生活と健康について	2014年10月	主催 UR都市機構 武庫川団地の高齢者を対象に日常生活における怪我や事故に対する注意点や健康に生活を送るための基本について講演を実施した。
7. 園児の体力向上について 講師	2014年09月	武庫川女子大学付属幼稚園の保護者を対象に、体力測定

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
8. 武庫川女子大学付属幼稚園児の体力測定	2014年08月	を実施した結果を報告し、子供たちの体力向上について講演した。
9. キッズスポーツ教室 講師	2014年08月	武庫川女子大学付属幼稚園児を対象に、握力、開眼片脚起立、幅跳び、柔軟性、敏捷性の体力測定を実施した。
10. 高齢者の運動教室 家庭でできる簡単トレーニング 講師	2014年07月	主催 スポーツクラブ武庫女 近隣の幼児、保護者を対象に運動の大切さ、運動の意義について講演し、家庭でできる運動について実演した。
11. 介助方法の考え方と理論 講師	2014年07月	主催 生涯学習鳴尾大学講座 近隣の高齢者を対象に、転倒予防に関するトピックスを紹介し、椅子に座ってできる簡単な運動を実施した。
12. 高齢者の体力測定	2014年07月	主催 阪神福祉センター 新生園の職員を対象に利用者の介助の方法についての考え方と理論を講演し、実際の介助方法について実演した。
13. 転倒予防と簡単トレーニング 講師	2014年06月	主催 武庫川女子大学栄養科学研究所 近隣の高齢者を対象に歩行スピード、開眼片脚起立、握力などの体力測定項目を実施した。
14. 大阪府軟式野球連盟 指導者講習会 講師	2013年11月	主催 武庫川女子大学栄養科学研究所 講演 近隣の高齢者を対象に転倒のメカニズム、転倒のリスク、転倒しやすい時間や場所、転倒に有効なトレーニングについて講演を実施した。
15. 転倒予防と体力測定 浜甲子園団地 講師	2012年07月	大阪府軟式野球連盟 指導者講習会講師 軟式野球に関わるコーチ、監督を対象にコンディショニング支援、怪我の予防、救急処置について講義、実習を実施した。
16. 新体操競技、カヌー競技の特徴とトレーニングの実際 講師	2011年06月	団地マネージメント研究会 講演 浜甲子園団地の高齢者を対象に転倒予防について講演し、歩行スピード、筋力、バランスなど基本的な体力測定を実施した。
17. 転倒予防教室 武庫川団地 講師	2011年02月	アスリートケア研究会 講演 アスリートケアの会員を対象に新体操競技、カヌー競技の運動特性とトレーニングの実際について講演した。
18. 新人研修 腰痛予防教室 講師	2008年03月～現在	団地マネージメント研究会 講演 武庫川団地の高齢者を対象に転倒予防について講演し、転倒予防に役立つ基本的な運動プログラムを実施した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 理学療法士	1988年04月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. PT・OTのための運動学テキスト	共	2015年12月	金原出版株式会社	頸部・顔面を担当し、表情筋、顎関節について、基礎運動学、運動学実習へと段階的に進め、臨床運動学として顔面神経麻痺、顎関節症について図表などを活用してまとめたテキストである。(PP. 担当部分15ページ)単
2. パーキンソン病の理学療法	共	2011年05月	医歯薬出版株式会社	奈良勲、松尾善美、依藤史郎、阿部和夫、大熊泰之、平岡浩一、浅井義之、丸山哲弘、長澤弘、望月久、武岡健次、宮本靖、鎌田理之、橋田剛一、岡田洋平、松屋綾子、小森絵美、内田賢一、石井光昭、佐藤信一、大久保智明、野尻晋一 パーキンソン病患者の姿勢異常について、特徴的な姿勢、原因、対策、四大徴候との関わりについて最近の知見を中心にまとめた。パーキンソン病の姿勢異常が動作に与える影響として、重心と支持基底、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. 運動学要点整理ノート	共	2009年09月	羊土社	座位姿勢、起立動作、寝返り、起き上がりについてまとめたテキストである。(pp. 114~119) 共 福井勉、山崎敦、岩崎裕子、上田泰久、岡崎倫江、柿崎藤泰、具志堅敏、西條富美代、櫻井愛子、白星伸一、武岡健次、田中則子、中保徹、中俣修、望月久、和田祐一 理学療法士、作業療法士に必要な不可欠な運動学を図表などを用いて、わかりやすく簡潔にまとめ上げたテキストである。(pp. 22~29) 共
4. 理学療法MOOK「スポーツ障害の理学療法」スポーツ傷害と理学療法士(共著)	共	2009年04月	三輪書店	小柳磨毅、井上 悟、武岡健次、淵岡 聡 全国高等学校野球選手権大会を中心にスポーツ傷害に対して理学療法士が理解すべき発生のメカニズム、理学療法評価、治療プログラムについてまとめたテキストである。(pp. 2~18) 共
5. 中枢神経障害理学療法学テキスト	共	2008年05月	南江堂	植松光俊、江西一成、大畑光司、田中昌史、宮本謙三、向井公一、隆島研吾、小田邦彦、古島譲、野口敦、山田和正、相澤純也、井崎義巳、西園みどり、今井公一、栗山裕司、指宿立、森岡周、森実徹、中川法一、井戸尚則、武岡健次 中枢神経疾患を中心に、症状概念、機能解剖、評価、治療プログラムについて簡潔にまとめたテキストである。(pp. 325~336) 単
6. アスレティックリハビリテーション -やさしいスチューデントトレーナーシリーズ	共	2003年06月	嵯峨野書院	小柳磨毅、上野隆司、山野仁志、小林茂、小崎利博、有川功、舌正史、平木治朗、森憲一、千葉一雄、大工谷新一、武岡健次、鳥淵佳寿、福島隆伸、辻恵津子、中川誠一、相田利雄、吉本陽二、元脇周也、濱田太朗、伊佐地弘基、木村佳記、木村佳記、長谷川聡、町田実雄、森美穂、岡田亜美、磯あすか、菊池奈美、椎木孝幸、橋本雅至 アスレティック・リハビリテーションの総論と、各論として部位別と競技別のスポーツ傷害に対する実例から構成されている。アスレティック・リハビリテーションの入門書として最適である。(pp. 95~102) 共
2 学位論文				
1. 高齢者におけるフォワードランジの運動特性	単	2005年3月	大阪教育大学 大学院 教育学研究科 修士論文	フォワードランジの高齢群は前方および後方推進期において股関節伸展モーメントの最大値が減少していたことから、高齢群の大股筋、脊柱起立筋、ハムストリングスなどの後面筋群の機能低下を反映していると推察された。
3 学術論文				
1. 高齢者におけるフォワードランジ動作の運動機能評価としての可能性 査読あり	共	2011年12月	健康運動科学 1巻	武岡健次 構井健二 高齢者のフォワードランジ動作と体力測定項目について若年者と高齢者における有意差の有無、相関について検討した。(pp. 31~36)
2. 熱画像による靴の適合性評価の試み	共	2011年06月	日本医学写真学会雑誌2012 第49巻第2号	鈴木順一、河村廣幸、武岡健次 短時間で靴の適合性評価を可能とする、熱画像を利用した評価方法の検討を試みた。下肢足部に障害のない健康男性1名に対し、靴の適合性を皮膚の表面温度より検討した。赤外線サーモグラフィによる熱画像が、靴の適合性を評価するための1手段になる可能性が示された。(pp. 1~6)
3. アマチュアボクシング選手のコンディショニングとパフォーマンスに関する研究	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	相澤 徹、田端瑛子、永田かおり、松岡紗也香、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、田中繁宏、真藤英恵、樫塚正一、西良浩一、鈴江直人 体重階級制スポーツ競技者の減量、コンディショニングと試合の勝敗の関係について検討した。(pp. 15~16)
4. 小学生の運動能力と生活習慣の関連についての検討	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	辻田めぐみ、山崎洋子、相澤 徹、松岡紗也香、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、真藤英恵 小学校の児童を対象に生活習慣のアンケート調査を行い普段の日常生活にどのくらい運動が取り入れているのかを調査した。(pp. 17~20)
5. 女子大学生競泳選手の競技成績に影響を与える脂肪量および非脂肪量の検討	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	相澤 徹、阿佐友季子、松岡紗也香、田嶋泰江、北田紀子、目連淳司、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、田中繁宏、真藤英恵 2005年から2008年までの4年間の体組成の変化と競技成績向上の関連性について検討した。(pp. 17~20)
6. 思春期女性の踵骨骨評価値に対する利き足の影響に関する検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要自然科学編 第56巻	有吉 恵、相澤 徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、樫塚正一 思春期女性の踵骨における骨評価値を利き足と非利き足を測定し、利き足の影響について検討した。(pp. 7~14)
7. 体組成と脈波伝播速度からみた思春期女性の生活習慣病危険因子の検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要自然科学編 第56巻	高岸由佳、相澤 徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、樫塚正一

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
8. 若年女性の生活習慣と脂質代謝に関する検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要自然科学編 第56巻	体組成と脈波伝播速度を測定することにより、思春期女性に起こりうる生活習慣病の危険因子について検討した。(pp. 1~6)
9. 高齢者のフォワードランジにおける後脚の運動特性	共	2006年12月	四條畷学園大学 リハビリテーション学部 紀要	森本明日香、藤井知久沙、相澤 徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、櫻塚正一 若年女性の生活習慣をアンケートにより調査し、脂質代謝との関連について調査した。(pp. 15~22)
10. スポーツ現場における傷害予防に対する試み	共	2005年06月	日本臨床スポーツ医学会誌 13巻3号	崎野祐吾, 山田隆司, 上野智浩, 武岡健次, 向井公一 高齢者のフォワードランジにおける後脚の運動特性を重心動揺計、床反力計を用いて分析し、前方への推進力を発揮するよりも、動作時の重心動揺の制動に機能することが示唆された。(pp. 44~49)
11. 高齢者におけるフォワードランジの運動特性	単	2005年03月	大阪教育大学 大学院教育学研究科 修士論文要旨集 vol.5	橋本雅至, 小柳磨毅, 武岡健次, 境 隆弘, 三谷保弘 スポーツ現場における理学療法士の活動を通じて実践しているスポーツ選書の傷害予防の取り組みについて紹介した。傷害予防の実現には、選手や指導者、スポーツ活動に関係するスタッフとの連携を図ることがきわめて重要である。(pp. 391~397)
12. 高齢者の身体特性と転倒予防について ー理学療法の観点からー	共	2004年05月	四條畷学園短期大学 リハビリテーション学科 紀要 vol.2	フォワードランジの高齢群は前方および後方推進期において股関節伸展モーメントの最大値が減少していたことから、高齢群の大殿筋、脊柱起立筋、ハムストリングスなどの後面筋群の機能低下を反映していると推察された。(pp. 53)
13. 足関節のバイオメカニクスとリハビリテーション	共	2004年03月	理学療法京都 33巻	武岡健次, 小柳磨毅 高齢者における、加齢と体力・転倒の定義と現状・運動特性と評価・理学療法による転倒予防効果について文献的考察を行った。(pp. 19~21)
14. 高齢者体力測定参加者の運動機能ーフォワードランジ計測の試みー	共	2003年12月	四條畷学園短期大学 リハビリテーション学科 紀要 創刊号 vol.1	小柳磨毅, 雨夜勇作, 向井公一, 武岡健次, 鈴木康三, 佐藤睦美, 木村佳記, 中江徳彦 足関節の外傷として発生頻度の高い、外側側副靭帯損傷のリハビリテーションをバイオメカニクスの視点から検証する。(pp. 41~44)
15. 徒手筋力検査による頭頸部癌頸部郭清術後の機能評価	共	1999年05月	頭頸部腫瘍 25巻2号	武岡健次, 向井公一, 小柳磨毅, 田中則子, 大里和彦 高齢者の健康増進における一つの手段として体力測定を実施し、測定項目とフォワードランジ動作との関連を明らかにし高齢者の身体機能の簡易的な指標になる可能性について検討した。(pp. 41~43)
16. パーキンソン病患者の歩行障害に関する動作解析	共	1999年03月	大阪府立看護大学医療技術短期大学部 紀要4	長原昌萬, 佐藤武雄, 吉野邦俊, 藤井隆, 稲上憲一, 西本聡, 桃原実大, 寺田友紀, 池田聖児, 武岡健次, 吉川正起 頭頸部癌患者に対して郭清術を施行し、患者の徒手筋力検査を行い、機能評価、経時的変化を報告した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)(pp. 217)
17. パーキンソン病患者の 小刻み歩行の評価	共	1997年12月	大阪府立病院医学雑誌20 (1)	武岡健次, 吉川正起, 池田聖児, 河村廣幸, 小柳磨毅, 淵岡 聡, 林義孝 パーキンソン病患者に椅子に向かって歩行して座る課題を実施させ、この時の一連の歩行を3次元動作解析装置をもちいて分析した。結果、パーキンソン病患者では、歩行速度の低下、歩幅の減少、両脚支持時間の増加を認め、特に目標物に近づくにつれて顕著に変化することが明らかとなった。(pp. 45~49)
18. パーキンソン病患者の姿勢保持障害の評価	共	1996年05月	理学療法13(3)	武岡健次, 七堂大学, 山田保隆, 河村廣幸, 岡田光郎, 小柳磨毅 パーキンソン病患者における傾斜刺激を用いて行った際の筋活動、重心動揺を表面筋電図、重心動揺計を用いて評価し、特徴について論述した。(pp. 195~200)
19. パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 ー傾斜刺激による定量的評価ー	共	1995年04月	理学療法科学10 (2)	武岡健次, 七堂大学, 山田保隆, 河村廣幸, 岡田光郎, 小柳磨毅, 澤田甚一 パーキンソン病患者の姿勢保持障害を傾斜刺激に対する反応に着目し、パーキンソン病患者における下肢の関節運動の特徴を明らかにした。(pp. 71~74)
20. 高校野球全日本チームのコンディショニング	共	1995年03月	大阪府理学療法士会誌23	小柳磨毅, 中山 朗, 玉木 彰, 淵岡 聡, 境 隆弘, 相川和久, 武岡健次, 林 義孝 高校野球全日本チームのAAAアジアジュニア選手権大会に、医科学面からサポートを行うスタッフとして参加した経験を基に、健康管理・障害予防対策の内容を報告した。(pp. 57~61)
21. ストレッチ*と筋力増強訓練	共	1995年01月	理学療法ジャーナル29 (1)	小柳磨毅, 山田保隆, 河村廣幸, 武岡健次 ストレッチングと筋力増強訓練についての最新の知見を紹介し、臨床への応用について論述した。(pp. 1

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
22. パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 -傾斜刺激に対する反応による評価-	共	1994年11月	大阪府立病院医学雑誌17 (1)	2~16) 武岡健次, 岡田光郎, 七堂大学, 山田保隆, 小柳磨毅, 澤田甚一 パーキンソン病患者の立位保持能力を傾斜刺激に対する反応による評価方法の妥当性について検討した。(pp. 31~33)
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. キッズスポーツ教室の取り組み	単	2012年12月	乳幼児教育学会 シンポジスト	武庫川女子大学付属幼稚園の園児を対象に前期1回、後期1回、時間は約2時間程度、キッズスポーツ教室を開催しました。園児の体力測定は楽しい運動や遊びの中から測定することが望ましく、入園から卒園までに運動能力の推移を分析することは園児の成長、発達の面からもとても重要である。保護者、教職員、学生が協力し合い、園児が体を動かす楽しさ、運動をする楽しみを積み重ねていく環境作りが必要不可欠であると考えられる。
2. 学会発表				
1. Current Status of Preschool Children's Participation in Sports Classes	単	2017年8月16日	2017 International Conference on Sports Policy and Leisure Tourism	Exercise is important for young children for improving physical strength and training ability, developing a healthy body, increase motivation, develop social adaptation skills, and cognitive abilities. However, places for exercising and opportunities to move their bodies are decreasing. It is important to provide children with time and space to move, including sports classes. Sports classes were conducted for young children (N=15), with "running," "jumping," and "throwing" as the main activities. Understanding each child's exercise ability is essential in sports classes. It is desirable for sports classes to improve children's exercise ability by making them enjoy exercise and play.
2. 理学療法教育における参加領域の教育方法の検討 - エコロジカルマップ作成の試み -	共	2008年07月	第21回教育研究大会・教員研修会 プログラム抄録集	理学療法教育において、学生が受け身的に学ぶだけでなく、積極的に授業に参加し、今の自分の現状を把握し、問題解決の方法を考える授業形態を試みた。(pp. 40)
3. Characteristics of forward lunge exercise in elderly persons	共	2007年06月	Program At A Glance World Physical Therapy 2007	Koyanagi M, Takeoka K, Mukai K, Higuchi Y, Tanaka N Knowledge of the characteristics of FL motion in elderly persons is useful for developing the movement therapy that improves motor function, prevents fall. Maximum step length and changes of COG with FL decreased in elderly group. These changes were mainly reflected in reduction of motion and moment on the both hip joints.
4. フォワードランジの運動特性 - 高齢者と若年者の比較 -	共	2004年09月	第59回日本体力医学会大会	武岡健次, 向井公一, 小柳磨毅, 田中則子, 樋口由美 高齢者が片側下肢を前方に踏み込むフォワードランジ (FL) 動作を解析し、若年群との比較により運動特性を明らかにした。動作分析は運動計測装置 (OMG社製VICON512) および床反力計 (AMTI社製AMTI OR6) を用い、下肢の関節角度、床反力を算出した。(pp. 368)
5. 高齢者におけるフォワードランジ動作の運動特性	共	2004年06月	第39回日本理学療法士学会大会	武岡健次, 向井公一, 小柳磨毅, 田中則子, 大里和彦 高齢者のフォワードランジ動作時の下肢における関節運動を解析し運動特性について報告した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能) (pp. 19)
6. 野球選手における肩甲上腕リズムの特異性	共	2002年07月	第37回日本理学療法士学会大会	上野隆司, 小柳磨毅, 武岡健次, 加来敬宏, 笹田篤史, 中川滋人 高校野球選手の投球動作の反復が肩甲上腕リズムに及ぼす影響について論述した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)
7. フォワードランジにおける踏み込み動作の運動特性	共	2002年07月	第37回日本理学療法士学会大会	佐藤睦美, 井上悟, 木村佳記, 橋本雅至, 武岡健次, 小柳磨毅 フォワードランジ動作時の踏み込み脚に着目し、関節運動と運動力学を解析し運動特性について報告した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)
8. フォワードランジ動作における下肢筋電図と動作パターンの分析	共	2002年02月	第13回大阪府理学療法士学会	木村佳記, 佐藤睦美, 井上悟, 橋本雅至, 武岡健次, 小柳磨毅 フォワードランジは下肢の指示税と運動性を高めるトレーニングとして用いられている。フォワードランジにおける下肢の筋電図と動作分析についてまとめ論述した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)
9. 頭頸部癌頸部郭清術後の機能評価	共	1999年10月	日本癌治療学会 会誌34巻2号	長原昌萬, 佐藤武雄, 吉野邦俊, 藤井隆, 稲上憲一, 西本聡, 桃原実大, 寺田友紀, 池田聖児, 武岡健次, 吉川正起 頭頸部癌患者に対して郭清術を施行し、患者の徒手

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
10. パーキンソン病患者の歩行障害の評価	共	1998年05月	第33回日本理学療法士学会	筋力検査を行い、経時的変化および日常生活の自立度について報告した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)(pp. 423) 武岡健次, 吉川正起, 池田聖児, 河村廣幸, 小柳磨毅, 田中則子, 林義孝
11. 腰痛教室の効果について	共	1994年11月	第34回近畿理学療法士学会	パーキンソン病患者において目標物が歩行に及ぼす影響について評価を行った。パーキンソン病患者の歩行障害として小刻み歩行やすくみ足が出現し、歩行速度、歩幅、両脚支持時間の割合について論述した。 山田保隆, 武岡健次, 七堂大学, 河村廣幸, 岡田光郎, 小柳磨毅
12. パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 -傾斜刺激に対する新しい試み-	共	1994年05月	第29回日本理学療法士学会	腰痛のメカニズムや腰痛教室における効果判定について論述した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能) 武岡健次, 七堂大学, 山田保隆, 河村廣幸, 岡田光郎, 小柳磨毅, 澤田甚一
13. 老人における筋力増強について	共	1991年05月	第26回日本理学療法士学会	パーキンソン病患者の姿勢保持障害に着目し傾斜刺激を用いて行う評価方法を考案した。パーキンソン病患者のステージと関連の高い定量的評価が可能となった。 池田聖児, 中川法一, 千代憲司, 森實徹, 大里和彦, 武岡健次, 山内賢治 (SW) 老人に対して最大筋力の1/3にあたる負荷を指標とし等張性訓練を24週間実施し老人の筋力増強効果について論述した。(共同執筆につき本人担当部分抽出不可能)
14. 温冷刺激後の筋力増強効果	共	1990年02月	第1回大阪府理学療法士学会	筋力増強訓練施行する上で、温刺激、冷刺激がWarming-up効果として筋力増強に与える影響について論述した。 武岡健次, 御手洗雄一, 中川法一, 大里和彦, 森實徹, 横井徳彦, 皮居達彦
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. 第87回選抜高等学校野球選手権大会		2015年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
2. 第96回全国高等学校野球選手権大会		2014年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
3. 第59回全国高等学校軟式野球選手権大会		2014年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
4. 第86回選抜高等学校野球選手権大会		2014年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
5. 第58回全国高等学校軟式野球選手権大会		2013年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
6. 第95回全国高等学校野球選手権大会		2013年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
7. 第85回選抜高等学校野球選手権大会		2013年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
8. 第94回全国高等学校野球選手権大会		2012年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
9. 第57回全国高等学校軟式野球選手権大会		2012年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
10. 第84回選抜高等学校野球選手権大会		2012年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
11. 第56回全国高等学校軟式野球選手権大会		2011年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
12. 第93回全国高等学校野球選手権大会		2011年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
13. 第83回選抜高等学校野球選手権大会		2011年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
14. 第55回全国高等学校軟式野球選手権大会		2010年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
15. 第92回全国高等学校野球選手権大会		2010年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
16. 第82回選抜高等学校野球選手権大会		2010年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. キッズスポーツ教室の取り組み	単	2012年12月	幼稚園の生活と教育-運動遊びを楽しむII 担当部分について	水谷孝子 崎山ゆかり 武岡健次 岩野康子 廣崎有美 塩井敬子 荒牧幸子 飯田真緒 伊東恵梨奈 H22年度より、健康科学研究部の活動として武庫川女子大学付属幼稚園の園児を対象に前期1回、後期1回、時間は約2時間程度、キッズスポーツ教室を開催しました。園児の体力測定は楽しい運動や遊びの中から測定することが望ましく、入園から卒園までに運動能力の推移を分析することは園児の成長、発達の面からもとても重要である。保護者、教職員、学生が協力し合い、園児が体を動かす楽しさ、運動をする楽しみを積み重ねていく環境作りが必要不可欠であると考えられる。(pp.136~141)単
6. 研究費の取得状況				
1. パーキンソン病患者の歩行障害に関する動作解析	共	1997年	大阪府立看護大学医療技術短期大学部 平成9年度共同研究助成	パーキンソン病患者の歩行障害のひとつであるすくみ足が目標物の有無によって増悪する現象を、ビデオ画像による解析システムにより下肢の関節運動、歩幅、身体重心の位置を尺度として客観的に検証した。その結果、目標物の存在により患者の歩幅と前方への重心移動量が減少し、すくみ足による歩行障害は増悪することが明らかとなった。
2. パーキンソン病患者の姿勢反応障害評価の検討-動的刺激における新しい試み-	共	1993年	財団法人 慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団 助成金（リハビリテーションの部）（単年度）	パーキンソン病患者の姿勢反応障害に対する定量的な評価方法として、床面の段階的な後方傾斜を利用したテストバッテリーを考案した。評価の結果は疾病の重症度分類とも相関が高く、臨床でも実施可能な簡便な姿勢反応障害に対する評価方法を確立した。
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2011年04月～現在	日本医学写真学会会員			
2. 2002年04月～現在	日本体力医学会会員			
3. 1988年05月～現在	日本理学療法士会会員			